

無限 MUGEN

シリーズ名:全日本フォーミュラ・ニッポン第5戦

大会名:2010年全日本選手権フォーミュラ・ニッポン第5戦 スポーツランド菅生

距離:3.704.256m×62周

予選:9月25日(土)曇り時々雨・観衆5,500人(主催者発表)

決勝:9月26日(日)晴れ時々曇り・観衆12,700人(主催者発表)

MOTUL TEAM 無限、初秋の菅生ラウンドを9位完走でレース終える

記録的な猛暑に襲われた夏もようやく終わり、晚い秋の到来とともに9月25～26日仙台近郊にあるスポーツランド SUGO（宮城県）にて、全日本フォーミュラ・ニッポン第5戦が開催された。東北地区の代表的なサーキットであるこのコースは今まで数多くの国際レースを開催してきた実績があり、きついアップダウンを有するサーキットとしても有名。右に大きく曲がる最終コーナーからホームストレート中央付近までの急勾配を全開で一気に駆け上るため、ドライバーにとっては強烈な横Gとの戦いが強いられる。グランドスタンド中央付近まで登りきると、今度は短く緩やかな下りが始まり 30R のキツイ 1 コーナーまでのブレーキ競争が勝負の行方を左右する難コース。第4戦のもてぎ戦から約1ヶ月半のブランクと先々週の SUPER GT 第7戦富士が記録的な豪雨による天災により中止になった為、スタッフの間では久々のレース開催という感じでレースウイークを迎えた。また、我が MOTUL TEAM 無限のドライバー井出有治選手は8月末に行われた SUPER GT 第5戦鈴鹿において優勝を飾っており、いい流れの中でレースを迎えることもあり、周囲の期待も集まった。シリーズもこのレースを併せて3戦を残すのみ。このレースでは是非でも結果を出すことが最大の課題となっていた。今回の菅生戦から全車にパワーステアリングが装着され、これがドライバーにとって吉と出るか凶と出るかも見所。年一度の菅生でのレース開催であるため、事前データが不足していることもいなめない事実であるが、チームは可能な限りの体制でサーキットに乗り込んだ。

9月25日(土)

フリー走行1回目(9:40～10:40)

スポーツランド SUGO は北上してきている台風の影響か、厚い雲に覆われた。気温もかなり低く、15℃前後という肌寒い中で9時40分、フリー走行1回目が始まった。我が MOTUL TEAM 無限は、今回から新たに導入されたパワーステアリングのシステムチェックと菅生にあわせたスタンダードのマシンセットの確認から走行を開始する。開始20分過ぎに#31山本選手が1コーナーでコースアウト。マシン回収のため赤旗中断された。パワーステア



M-TEC Press Information

リングのシステムに戸惑うチームが多く、コースアウトやスピンの続出。赤旗が解け、走行再開後はタイムの更新合戦が始まる。井出選手は急激な気候の変化で路面温度が低い為か、アンダーステアのマシン特性に苦しむ。最終的には 18 周をこなし、終盤の 17 周目に自己ベスト 1'07.781 を刻み 13 番手でこのセッションを終えた。

(ベストラップ 17LAP 1'07.781 13位)

9月25日フリー走行(1回目)

P	No	Driver	Team	Engine	Time	Delay	Gap	km/h
1	1	ロイク・デュバル	DoCoMo TEAM DANDELION RACING	HONDA HR10E	R1'05.925	-	-	202.28
2	8	石浦 宏明	Team LeMans	TOYOTA RV8K	R1'06.317	0.392	0.392	201.08
3	32	小暮 卓史	NAKAJIMA RACING	HONDA HR10E	1'06.378	0.453	0.061	200.90

13	16	井出 有治	MOTUL TEAM 無限	HONDA HR10E	1'07.781	1.856	0.024	196.74
----	----	-------	---------------	-------------	----------	-------	-------	--------

タイヤはブリヂストン(BS) シャシはスィフト FN09 ワンメイク

公式予選 (Q1 14:30~14:50)

午前同様、空には雨雲が広がる。先日までの 30℃を越える猛暑が続いた日々とは一転、異常気象を思わせるような寒さ。気温は 16℃、路面温度は 18℃しかなく、少なからず、マシンに影響を及ぼしていた。今回もフォーミュラ・ニッポン恒例のノックダウン予選方式でスターティンググリッド順位が競われる。まず、Q1 突破には 12 番手以内に順位を入れなくてはならない。井出選手のリクエストに応えるべくマシンを仕上げる為に、チームは懸命の作業を続けるもののセット出しに悩まされていた。走り出しは強いアンダーステアに苦しめられる。7 周目にピットインし、フロント足回り部分のセット変更を行い、ニュータイヤを装着し Q1 突破を目指す。コースイン。マシンを左右に振り、タイヤに丁寧に熱を入れる。クリアラップが取れた 9 周目に井出選手の渾身のアタックにより、自己ベスト 1'07.643 を記録し 11 番手に浮上する。このまま、Q1 突破と思われた終了間近、2 台のマシンがタイムアップを果たし、13 番手に落ちてしまう。Q2 進出には 12 番手のポジションが必要であり、井出選手は更にニュータイヤを投入し、最終ラップに猛アタックを行うものの 12 番手のマシンにはコンマ 8 秒及ばず、ここで予選敗退。明日のレースは 13 番手からのスタートが確定した。

(ベストラップ 9 LAP 1'07.643 13位)



M-TEC Press Information

9月25日 予選Q1

P	No	Driver	Team	Engine	Time	Delay	Gap	km/h
1	1	ロイック・デュバル	DoCoMo TEAM DANDELION RACING	HONDA HR10E	R1'06.143	-	-	201.61
2	32	小暮 卓史	NAKAJIMA RACING	HONDA HR10E	R1'06.221	0.078	0.078	201.38
3	8	石浦 宏明	Team LeMans	TOYOTA RV8K	R1'06.291	0.148	0.07	201.16

13	16	井出 有治	MOTUL TEAM 無限	HONDA HR10E	1'07.643	1.5	0.613	197.14
----	----	-------	---------------	-------------	----------	-----	-------	--------

タイヤはブリヂストン(BS) シャシはスイフト FN09 ワンメイク

9月25日 予選総合結果

P	No	Driver	Team	Engine	Q1	Q2	Q3
1	1	ロイック・デュバル	DoCoMo TEAM DANDELION RACING	HONDA HR10E	1'06.143	1'05.949	1'05.843
2	32	小暮 卓史	NAKAJIMA RACING	HONDA HR10E	1'06.221	1'06.564	1'05.892
3	19	ジョアオ・パオロ・デ・オリベイラ	Mobil 1 TEAM IMPUL	TOYOTA RV8K	1'06.435	1'06.153	1'06.061

13	16	井出 有治	MOTUL TEAM 無限	HONDA HR10E	1'07.643
----	----	-------	---------------	-------------	----------

タイヤはブリヂストン(BS) シャシはスイフト FN09 ワンメイク



9月26日 (日)

フリー走行 2 回目 (9:00~9:30)

フリー走行 2 回目は決勝日の 9:00 より、30 分間で行われた。昨日の曇天と違って変わり、秋らしい日差しがサーキットに降り注ぐ。セッション開始時の気温は 16℃。路面温度 21℃。肌寒さは引き続き残っていた。井出選手はコースオープンと同時にコースイン。このセッションでは、昨日、顕著に出ていたアンダーステア特性を修正すると同時に決勝セットのチェックとピットインシュミレーションを行う。8 周目にピットイン。フロントキャンバー角のセットの見直しを行った結果、9 周目に 1'09.027 の自己ベストタイムを刻み 6 番手に浮上。その後も 1 分 9 秒台の安定したタイムを刻む。最終的には 8 番手でこのセッション



M-TEC Press Information

を終えるものの決勝に向けてのセット出しが出来た事を確信した。

(ベストラップ 9 LAP 1'09.027 8位)

9月26日フリー走行(2回目)

P	No	Driver	Team	Engine	Time	Delay	Gap	km/h
1	1	ロイク・デュバル	DoCoMo TEAM DANDELION RACING	HONDA HR10E	1'08.043	-	-	195.98
2	2	伊沢 拓也	DoCoMo TEAM DANDELION RACING	HONDA HR10E	1'08.074	0.031	0.031	195.89
3	36	アンドレ・ロツテラー	PETRONAS TEAM TOM'S	TOYOTA RV8K	1'08.331	0.288	0.257	195.16

8	16	井出 有治	MOTUL TEAM 無限	HONDA HR10E	1'09.027	0.984	0.262	193.19
---	----	-------	---------------	-------------	----------	-------	-------	--------

タイヤはブリヂストン(BS) シャシはスウィフト FN09 ワンメイク



決勝 14 : 30～ (62周)

レース進行が始まる 13:45、上空には秋らしい澄み切った青空が広がり、絶好のレース日和となる。(気温 20℃ 湿度 51%) 決勝の距離は、例年より短い距離で62周、230 kmに設定され、また、ピットインや給油の義務が無い為、燃費によってはノーピット作戦も可能。



M-TEC Press Information

MOTUL TEAM 無限はギャンブル的な作戦は取らずに、レース中盤に給油とタイヤ交換を行う。13:45 から 8 分間のウォームアップ走行が行われる。決勝用のニュータイヤを履きコースイン。手塚監督が最後のマシンバランス調整を行い、フロントタイヤのグリップ不足を改善した。更にアンチロールバーと空力バランスを調整して最後のセットを確認する。ここで井出選手は決勝レースへの手応えをつかむ。

14:00。クルーはピットからダミーグリッドへマシンを送り出す。マシンがダミーグリッドに着くと、冷却ファンやドライアイスを使いマシンのクーリング作業に入る。国家斉唱、フォーメーションラップを終えると、ブルーシグナルと同時に 14:30 に決勝レースがスタート。62 週の戦いの火蓋が切られた。ホールショットを奪ったのは 2 番手スタートの#32 小暮選手。#16 MOTUL TEAM 無限、井出選手は得意のスタートダッシュを決め、3 台をかわし 10 位で 1 コーナーに進入。中盤グループとともに 2 コーナーに進入。しかし 3 位からスタートした #19 オリベイラ選手が 2 コーナー立ち上がりでスピン。これをきっかけに多重クラッシュが起きる。井出選手は #18 平中選手に接触。フロントノーズにダメージを負ってしまうが、幸いにもセーフティーカーが導入され、すぐにピットイン。フロントノーズ交換のみでレースに復帰することが出来た。セーフティーカーランは 4 周にわたって続き、井出選手は隊列の最後尾 13 位につける。5 周目からレースが再開。1 分 11 秒台の安定したタイムでライバルを迫る。13 周目には他車のトラブルにより 12 位に浮上。9 番手争いの後方まで迫る。前を走るのは #29 井口選手。オーバーテイクシステムを使い、追い抜きを試みるもコース幅が狭く、直線が短いこのサーキットで抜くのは難しく、井出選手がピットインするまで、この勝負に決着がつかなかった。29 周目にピットイン。最低限のガスチャージとタイヤ交換を行い、僅か 16 秒でピット作業を追い、マシンをコースに送り出す。これが功を奏し、#37 の井口選手のピット作業中にオーバーテイクし、11 位へポジションを上げる。更に終盤、マシンが軽くなってくると同時にペースアップ。33 周目には自己ベスト 1'09.986 を刻み、その後も 1 分 10 秒台で周回を重ねる。気になる燃費であるが、井出選手からのフェューエルカウンターの情報を基に、手塚監督の的確な指示でミクスチャーを調整。ペースを落とすことなくトップのペースと変わらないタイムで周回を重ねる。更に前のライバルをオーバーテイクしたいところではあったが、10 位のまま最終ラップへ。前を走る #3 松田選手との差は 4 秒。もはやここまでかと思っていた矢先、なんとトップを走っていた #19 オリベイラ選手がガス欠により、コース途中でマシンを止めてしまう。これにより 9 位浮上に成功。62 周を走りきり、惜しくも入賞目前の 9 位完走でレースを終えた。優勝はなんとノーピット作戦を敢行した #37 大嶋選手が初優勝を飾った。フォーミュラ・ニッポン第 6 戦の舞台は、フォーミュラ・ニッポン九州地区唯一の開催となる、大分県にあるオートポリスにて 10 月 17 日決勝で行われます。皆様の応援宜しくお願いします。



M-TEC Press Information

9月26日 決勝

P	No	Driver	Team	Engine	Time	TOPTIME /BEHIND
1	37	大嶋 和也	PETRONAS TEAM TOM'S	TOYOTA RV8K	62	1:17'52.542
2	1	ロイク・デュバル	DoCoMo TEAM DANDELION RACING	HONDA HR10E	62	3.347
3	36	アントレ・ロッセラー	PETRONAS TEAM TOM'S	TOYOTA RV8K	62	3.538

9	16	井出 有治	MOTUL TEAM 無限	HONDA HR10E	62	59.188
---	----	-------	---------------	-------------	----	--------

タイヤはブリヂストン(BS) シャシはスィフト FN09 ワンメイク



井出有治選手コメント

今回も走り出し、予選が厳しい状況でした。しかし、決勝までに手塚監督とともにタイヤの内圧で良いマシンバランスを出したおかげで、コンスタントに早いタイムを刻むことが出来ました。オープニングラップの接触については前で起こったアクシデントの状況がまったく見えなかった。ダメージが最小限でコースに復帰できたのは幸いでした。結果はまた 9 位でしたが、次戦は単に入賞ではなく表彰台を狙います。引き続き応援宜しくお願いします。



勝間田エントラント代表コメント

やはり予選で上位に行かなくては、決勝に於いては勝負にならない。上位につけていれば中盤グループで頻繁におこるアクシデントは回避できる。結果的には初めのピットインが余計であった。しかし決勝でのラップタイムは非常に良く、うまくいけば入賞も見ていたので残念であるが、次のレースでは良いレースを見せてくれると思う。



M-TEC Press Information



手塚監督コメント

走り始めからマシンのバランスが決めきれずにセッティングに追われたレースでした。結果的に2セット目にエアでマシンバランスをとったものがうまくはまり、決勝レースの快走に生かすことが出来た。接触に巻き込まれて、今回も入賞できませんでしたが、次戦のオートポリスは自分なりに秘策があり、自信を持って臨めます。うまく井出選手に反映させて上位入賞を狙っていきます。期待してください。引き続き応援宜しくお願いします。

